

ウ、雲州ス。ナクジリ同上。スナムグリ津輕スナメグリ仙臺カタビラド。チャウ。筑前ノソ。越中ムギ。ハラド。チャウ。濃州カハド。チャウ。ホトケド。チャウ。筑後一種京ニテホトケド。チャウト云ハ、首圓扁ニシテ鬚ナク形小ナリ、一名スナハミ。備後ホソ、越中ホソボソ同上カラチヨ仙臺カハド。チャウ。和州タケシヨ北江又豫州吉田ニテホトケド。チャウト云ハ、江戸ノタボハゼナリ。

〔食物和歌本草〕

〔一ドチャウ  
鮓

こそ中をあたゝめ氣をも益酒のえいをもさます物なれ 鮓たゞ消渴の藥米の粉とにあわせてくへば痔をも收る

〔老の長咄〕おのれ好めるものとて、近しき友、鰯を一升ほどくれられたり、よきものえたりと思ふ折から、一齋といへる友來たり、幸なるかな、これを煮んといへば、先待れよ、こなたにては世話なり、我が宿にて煮させ申べしと、其まゝ持行ぬ、間もなく下人に鍋を提させ、酒一陶そへてぞ來たる、こはふしげはやく煮べきものならずと思ひながら見てあれば、居酒やの煮おきのどじやう汁なり、是はいかにといへば、さればよけふは我心ざす事あれば、かくははからひしなりといひつゝ、喰ひ酒も皆呑つくし、先の鰯を又取よせ、いざく御堀へはなしなんと川邊にいたりてうちあくれば、おほくの鰯れい／＼とさる、

〔浪花街迺尊〕千長○中 イヤ鰯で思ひ出しやしたが、蛭子橋とやらを通りやすと、橋の上ではなし鰯はなし鰯を賣つて居やしたが、はなし鰯といふは江戸にありやすが、はなし鰯といふは初めて見やした、

〔鋸屑譚上〕泥鮓俗に土淨とよぶは音の轉訛なり、今按に作臘、生ながら投之釜中、撥々として飛出難以收之、さうに火ばしをもて釜の臘<sub>鱗留</sub>の處を壓ゆれば、すなはち無一有動搖者矣、此亦厭勝之奇術也、嘗聞之、京都某姓泥鮓を桶に入れ、畜ふこと十日計、一日當煮食而觀之、悉化して爲蠅蠅